

*プロジェクト

1 「高齢者社会参加プログラム」の推進

● 背景 ●

高齢者といっても、明治生まれから昭和ふた桁生まれまで幅広い世代の集まりであり、異なる時代・環境に育ち、その人生経験と価値観、生活観、行動様式は多様である。

今後、戦後生まれの団塊の世代が高齢期を迎え、さらに高齢者の意識・価値観、志向性、ライフスタイルは多様化する。

高齢者の9割近くは、元気で自立している。



さまざまな分野での社会参加に対する関心が高く、ニーズは多様化し、増加する。社会参加は高齢者自身の心身の自立度維持・向上に効果的である。

活力ある地域社会づくりの観点からも、高齢者の社会参加の推進は重要である。

● ねらい ●

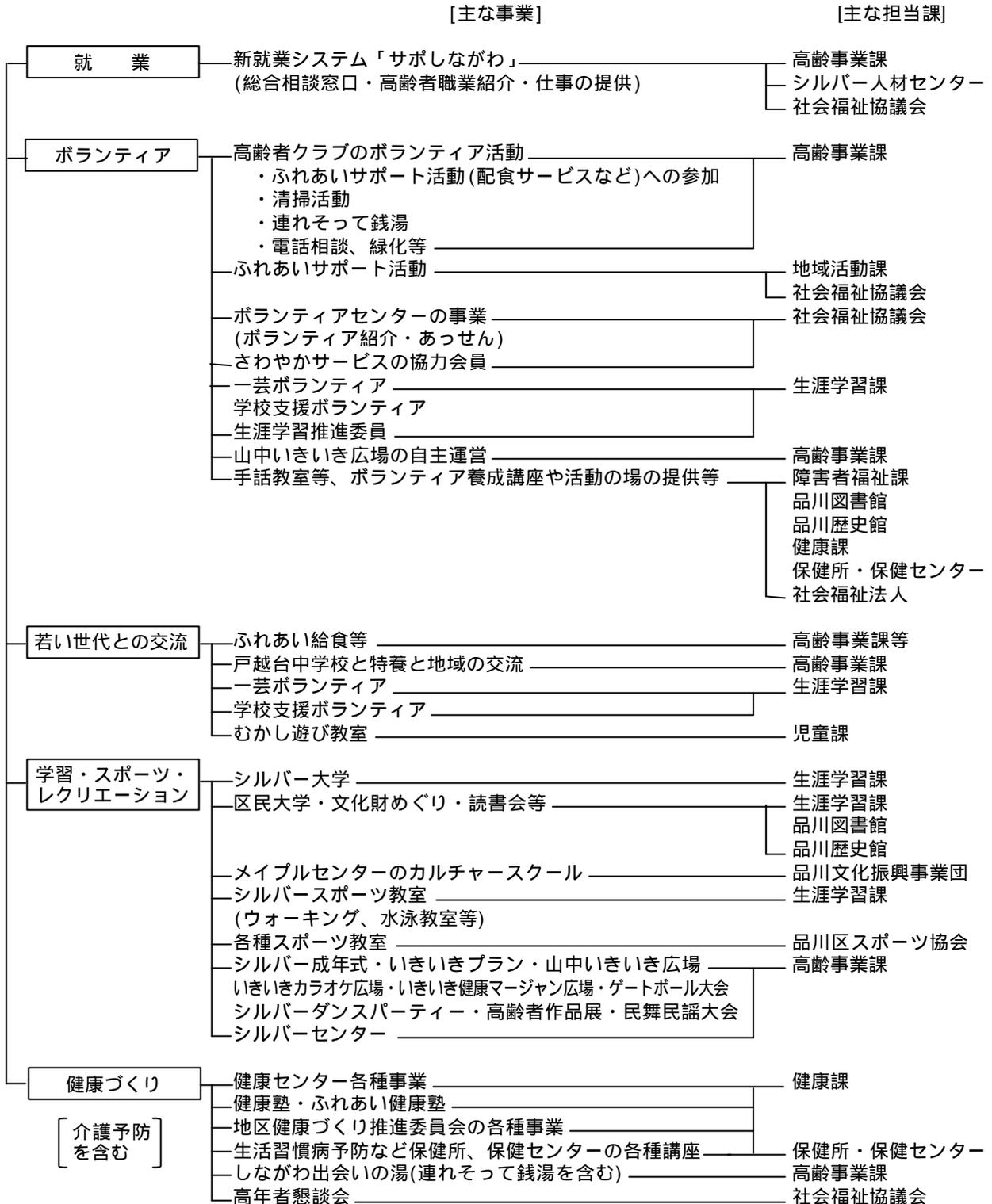
多様化する高齢者のニーズに対応する社会参加の機会と場を体系化して、幅広い選択肢を用意するとともに、高齢者に効果的に提供する。

社会参加の推進は、高齢者自身にとっては生きがいづくりであり、一方地域社会にとっては、高齢者の知恵を社会に活かすこととなる。

サブプロジェクト

1. 就業 - 新就業システム「サポしながわ」の充実
2. ボランティア - ふれあいサポート活動への参加促進
3. 生涯学習・スポーツ・レクリエーション等の事業の充実
4. 若い世代との交流事業の促進

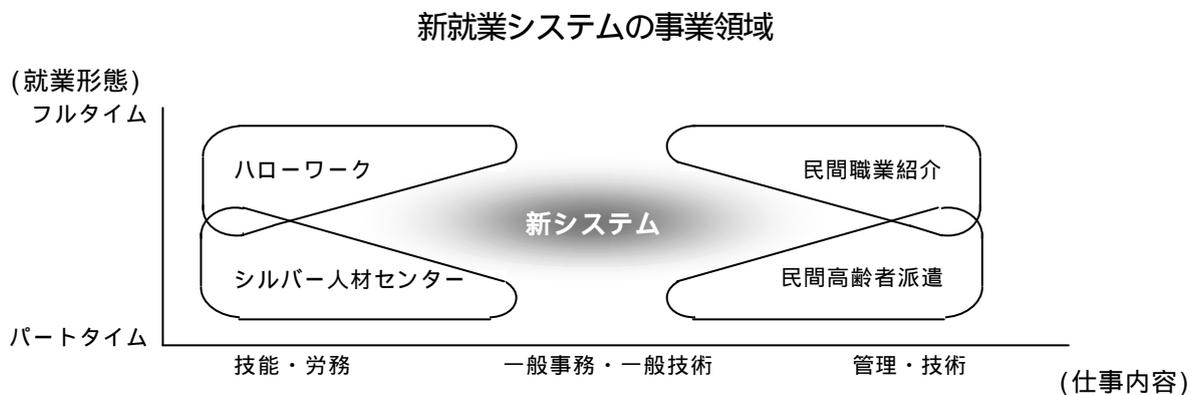
高齢者の社会参加プログラム体系



サブプロジェクト1 就業——新就業システム「サポしながわ」の充実

● 目的 ●

サラリーマンOBを含む50代後半からのヤングオールドの就業ニーズが量的に増大するとともに質的にも多様化している状況をふまえ、経験を活かした就業や短時間就業など、「現役」とは異なる多様な「高齢期の働き方」を可能とする条件整備が求められている。新就業システムは、こうしたニーズに対応するため、総合的な就業支援を行うものである。



● 経緯 ●

平成12年度、「高齢者社会参加プログラム」の一環として、高齢者の就業に関する総合的な就業支援サービス（品川区新就業システム）事業化の可能性を検討する。平成13年度、高齢者の求職ニーズ、事業者の求人ニーズ等を把握し、「品川区新就業システム」の基本的な考え方および運営体制等を検討するとともに、実施に向けて具体的な準備を行った。

平成14年4月、高齢者の就業支援サービスを行う総合相談窓口『サポしながわ』を品川区シルバー人材センターに開設。同年9月、品川区社会福祉協議会が無料職業紹介事業の許可を取得し、シルバー人材センターと連携して『サポしながわ』が全面的にサービスを開始した。

概要

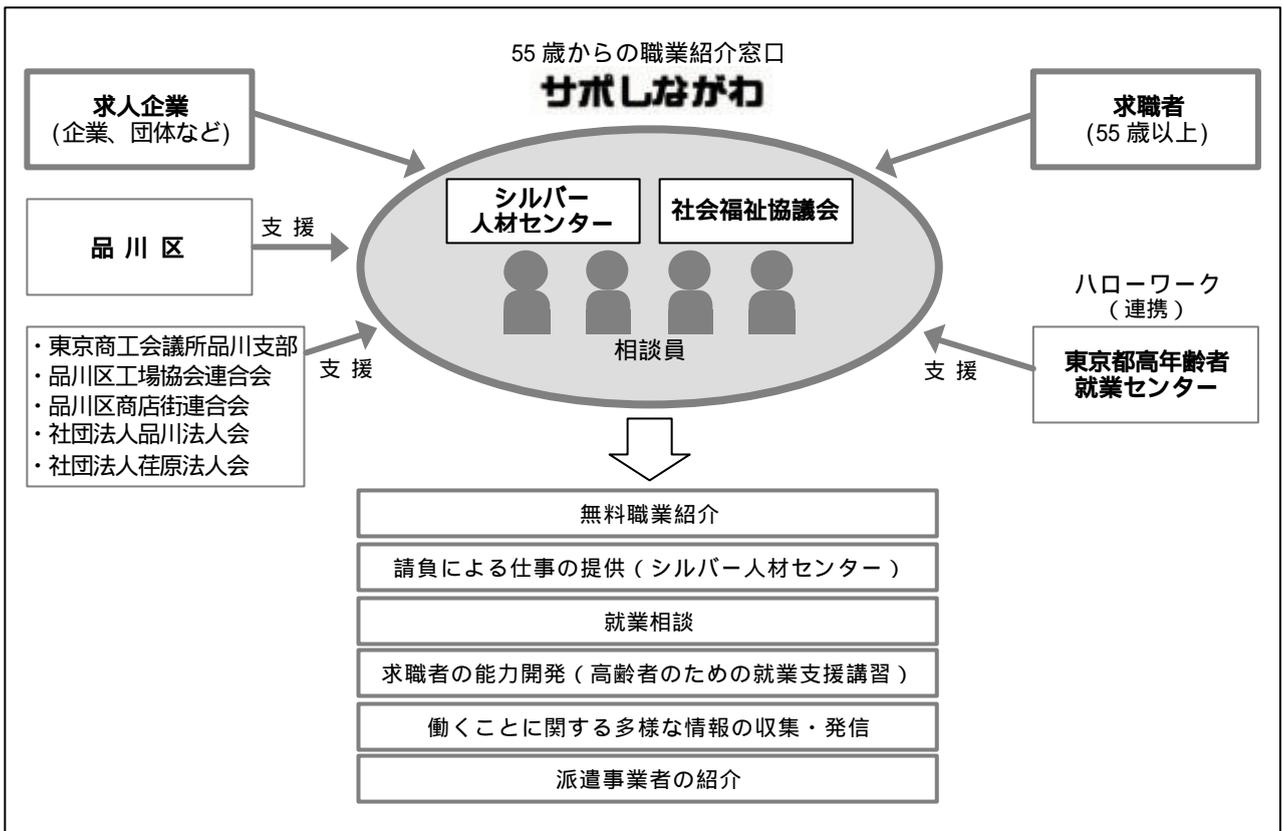
新就業システムは、高齢者の多様化する就業ニーズに対応するため、品川区シルバー人材センターと品川区社会福祉協議会が連携し、高齢者の就業に関する総合的な支援サービスを実施するしくみである。

東京都の施策も活用して構築し、ハローワークや民間職業紹介等とも連携して運営し、就業相談を強化する。

ハローワーク等既存のしくみでは届きにくかった一般事務・一般技術分野における高齢者の就業を促進するため、無料職業紹介事業を新たに行う。

対象は主として60代であるが、55歳以上の者に対してもサービス提供を行う。

新就業システム サポしながわ の概要



サブプロジェクト 2 ボランティア——ふれあいサポート活動への参加促進

● 現 状 ●

高齢者が参加しやすいボランティア活動として、地域における相互支援活動「ふれあいサポート活動」がある。

また、ボランティアセンターの登録ボランティアや、さわやかサービス協力会員は、60歳以上が約4割強を占めている。

ボランティア活動を高齢者の新たな生きがい活動、社会参加活動として明確化し、より一層活性化させるため、「高齢者社会参加プログラム」では、ふれあいサポート活動への参加促進を図っていく。

高齢者クラブは、60歳以上の高齢者の19.2%、65歳以上の高齢者の約26%を組織している、高齢者の組織として最大の組織である。

高齢者クラブでは、従来からまちの清掃や街角花壇の手入れ等の活動を行ってきたが、平成7年度からふれあいサポート活動に参加し、学校給食配食サービスも行ってきた。

● 推進策 ● 高齢者クラブが中心となって、身近な地域での高齢者同士の助け合いを進める

1. 高齢者クラブの地区組織を地域センターの地区割りに即した形とする。

従来、高齢者クラブは町会の区割りに基づいて作られ、品川区高齢者クラブ連合会は7地区に分かれて活動し、ふれあいサポート活動にあたっては、地域センターの地区割りに合わせて13の地区に委員会を設けて活動していた。15年度からは、地域センターの地域割りと同じ13地域体制、5地区の組織に再編し、ふれあいサポート活動へのより積極的な参加と、高齢者クラブの活性化を図っていく。

2. ふれあいサポート活動への積極的な参加

地域センターと連携を図りながら、ふれあいサポート活動への参加を活発にして、身近な地域での高齢者同士の助け合いを深めていく。

3 . 高齢者クラブの日常的な活動をふれあいサポート活動に活かす。

閉じこもりがちな高齢者に声かけをして、朝の体操、歩こう会、茶話会等の活動への参加を促すことにより、ふれあいサポート活動を推進する。

4 . 高齢者クラブの活性化と会員の増強

積極的にPR活動を行い、高齢者クラブの存在と活動内容をアピールし、60代の若い高齢者の入会を促す。さらに、ふれあいサポート活動を含めて、より魅力的な活動メニューを加えることにより、会員数の増強を図る。

高齢者社会参加プログラムのスケジュール

	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15～19 年度
高齢者社会参加プログラムの策定	検討・策定	プログラムの推進	プログラムの充実
新就業システムの構築	検討	サポしながわ開設（4月）	システムの推進
ふれあいサポート活動の推進	検討	高齢者クラブの13地域化への取り組み	13地域を基本とした活動の推進

サブプロジェクト 3 生涯学習・スポーツ・レクリエーション等の事業の充実

● 現 状 ●

高齢者を主な対象とした生涯学習・スポーツ・レクリエーション等の事業は、シルバー大学をはじめさまざまな形で、生涯学習課・高齢事業課等の庁内各部門および品川文化振興事業団・品川区スポーツ協会等の外郭団体が展開している。

● 推進策 ● 生涯学習・スポーツ等の事業の見直し・再編成と情報提供の充実

プログラムの内容については、高齢者ニーズに対応する視点で常に見直しを行い、充実を図る。

高齢者の心身状況に応じた参加の機会と場を設定する。

高齢者が利用しやすい情報提供の手法を工夫する。インターネットの活用など、情報発信の手法・内容を検討する。

公衆浴場や寺社の境内、民間の教育・文化・スポーツ施設など、まちの資源を活用する。

シルバーセンターは、同世代が共感を持って交流できる身近な地域の場として、より多くの高齢者が利用できるよう、効果的な活用を図る。

学校の空き教室や体育館等の施設開放など、既存施設の一層の活用を図る。

サブプロジェクト 4 若い世代との交流事業の促進

● 現 状 ●

地元の高齢者と小学校の児童などが交流する「ふれあい給食」を実施している。戸越台特別養護老人ホーム(中学校との複合施設)での中学生との交流、「保育園ふれあいデイホーム」など、要介護高齢者と子どもたちとの交流も徐々に広がってきている。

また、山中小学校の空き教室を利用して開設した「山中いきいき広場」では、地域の高齢者と小学生の交流が行われている。

京陽小学校PTAのOBで結成された「京陽会」は、長年学校給食の配食ボランティア活動に携わってきたが、最近は京陽小学校と連携を深め、配食ボランティアを授業に取り入れたり、夏休み親子配食活動を行っている。

最近、小・中学校の「総合的な学習」に講師として地域の高齢者が招かれ、昔の地域の様子や子どもの遊びを教えたりしながら、子どもたちとの交流を図っている。中学校においては、地域の区民が生徒と一緒に学ぶ「公開授業」を実施しており、そこに高齢者が参加し、漢字や英語等の授業を生徒とともに受けている。

● 推進策 ● 若い世代との交流事業の促進

引き続き、高齢者と若い世代とのさまざまな交流の場を拡充する。
高齢者が長年培ってきた経験や知恵を活用した事業を展開していく。